

令和7年
2025年

1月

日	月	火	水	木	金	土
《1日 元日》 年のはじめを祝う日です。 《13日 成人の日》 大人になったことを自覚し、みずから生き抜こうとする青年を祝い励ます日です。			1 先勝 ●元日 歳旦祭 うま	2 友引 皇居一般参賀 ひつじ	3 先負 元始祭 さる	4 仏滅 とり
5 大安 小寒 いぬ	6 赤口 む	7 先勝 昭和天皇祭 七草 一粒万倍日 ね	8 友引 うし	9 先負 とら	10 仏滅 一粒万倍日 う	11 大安 鏡開き たつ
12 赤口 み	13 先勝 ●成人の日 三りんぼう うま	14 友引 ひつじ	15 先負 小正月 さる	16 仏滅 とり	17 大安 土用 いぬ	18 赤口 む
19 先勝 一粒万倍日 ね	20 友引 大寒 うし	21 先負 とら	22 仏滅 一粒万倍日 う	23 大安 たつ	24 赤口 み	25 先勝 三りんぼう うま
26 友引 ひつじ	27 先負 さる	28 仏滅 とり	29 先勝 いぬ	30 友引 む	31 先負 一粒万倍日 ね	

睦月

【むつき】令和7年1月

新しい年を一家の人々で仲よく迎える月という意味で、睦には「むつみ」すなわち「なかよく親しみあう」の意味があります。

発行：北海道神社庁一區教化委員会

神明の利益を蒙ること 信力の厚薄に依るとなり

倭姫命世記

今月のことば

神明の利益を蒙ることは
信力の厚薄に依るとなり

倭姫命世記

信仰心とは神を信ずることの深い浅いかによつて、その結果に差がある。神のお言葉を、又神の行為は見習ふべきものであつて、これを神習ふ以外に、自分の生きる道はないのだと、これを絶対信じ、実行するものと、さうでなく、一通りの信仰心しか持たないものとの差は、後になつて、その人のすべてに亘つて大きな差のあることは、幾多の実例によつて示されてゐる。信仰に生きる人、信仰によつて生かされてゐる人は、幸福な人だといへる。

神が、かうすることが一番幸せなのだと思はれてゐるなら、その通り、実行する以外に、自分の生きる道はないのだとして、毎日、どこでも、その言葉通りに生きる。若しも、それが神のご利益だとするならば、神の言葉によつて、生かされてゐる自分を見出すことは、信仰上、最も幸福であり、そこに神のご利益が溢れて出てゐるといへよう。

(神道百言 一般財団法人神道文化会編より抜粋)

季節のまつり

御節

おせち料理は
神様に供える御節供

「おせち」は、もともとは季節の変わり目の節供（節句）に、年神様に供えるための「お節」料理でした。なかでも正月がもっとも重要な節供という事から、正月料理に限定して言うようになりまし。

「おせち」は年神様に供えるための供物料理であるとともに、家族の繁栄を願う縁起ものの家庭料理でもあります。

鏡開

一月十一日
お供え餅で開運

正月の間お供えしていた鏡餅をおさげしておしるこにして食べる行事です。鏡餅は刃物を使わないのがしきたりで、手や木槌で割るため切ると言わずに運を「開く」という意味をこめて鏡開きと言います。



Q、お参りの作法を教えてください

鳥居からくぐりますがこのとき、軽く一礼します。参道は中央を歩かないようにしましょう。道の真ん中は、神様の通り道だからです。

境内に入ったらず水舎で清めをします。右手に柄杓を取って清水に汲んで左手にかけ清めます。次に柄杓を持ち替えて右手にもかけます。そして再び持ち替えて左手のひらに水を受けて、口をすすぎます。最後にもう一度左手で水を流します。

拝殿の前に進み軽く一礼してから、賽銭を入れ、鈴があるなら鈴を鳴らして、「二拝二拍手一拝」の作法でお参りをします。この時正式には、礼は九十度に体を折り、拍手は両手を胸の高さに合わせ、右手を少し引いてから、二度拍手を打ちます。右手を戻して両手を合わせ、ここで祈願をします。最後にもう一度九十度の礼をして、軽く会釈をしてから下がり

尚、神社によっては、一社の故実により異なった作法をおこなっているところもあり、伊勢の神宮の神職がおこなう「八度拝八開手」や出雲大社の「二拝四拍手一拝」などがあります。

せいれんかっきん 清廉恪勤

心が清くて私欲がなく、まじめに一生懸命勤めること。



ふゆぼたん
冬牡丹

二十四節気

【小寒 しょうかん】…五日

すでに本格的な冬の季節で、寒風と降雪に悩まされます。

【大寒 だいかん】…二十日

ますます極寒の辛苦にさいなまれる季節ですが、春はもうすぐ間近にせまっています。

六曜・選日

《六曜》
【先勝】…諸事急ぐことによし、午後よりわるし
【友引】…朝夕よし、正午わるし、葬式を忌む
【先負】…諸事静かなることによし、午後大吉
【仏滅】…万事凶、患えは長びくおそれあり
【大安】…何事をするにも吉日、大吉日
【赤口】…諸事油断すべからず、正午のみ吉日
《選日の吉凶》
【三隣亡】…三隣亡日、普請始め、棟上大吉日
【三りんぼう】…出資・投資・購入、新規事業開始
【一粒万倍日】…結婚は吉、借る、離別凶

七十二候《1月》

大寒

初候・歌冬華（かんとうはなさく）
セリがよく育つ
次候・水沢腹堅（さわみはたか）
氷が厚く張る
末候・鶏始乳（にわとりはじめてうす）
二つトリが卵を産み始める

小寒

初候・芹乃采（せりすなわちさかう）
セリがよく育つ
次候・水泉動（すいせんどう）
凍った泉が動き始める
末候・雉始雊（きしはじめてなく）
オスのキジが囀り始める

国旗「日の丸」 をかかげましょう

国旗「日の丸」は朝日（昇る太陽）を象徴し、円満を意味しています。稲作を中心に生活してきた私たちが祖先是、太陽の恵みに感謝してきました。また古来、国号を「日の本」「大和」としてきたことにも深い関係があります。さらに「日の丸」の赤は、明るさや情熱、勢い、誠を、白は清らかさや純粋、潔白を表しているとも言われます。これは清明心を尊んだ日本人の精神性とも合致します。まさに、日本国の国柄と日本人の心を、そのまま形に表現した国旗は「日の丸」を除いて他にないでしょう。

「白地に赤く、日の丸染めて
ああ美しい、日本の旗は」
この歌は明治から今日まで唱歌として、小学校で教えられています。この歌に歌われてるように「日の丸」はシンプルで美しい旗です。国民こそ祝いで、感謝し、または記念する「国民の祝日」には、国旗を掲げましょう。

いぬ 安産祈願 1月の戌の日

5日 (日)
17日 (金)
29日 (水)

*戌の日以外でも安産祈願のご奉仕をしております。神社にお問い合わせください。

祝祭日には国旗を掲げましょう